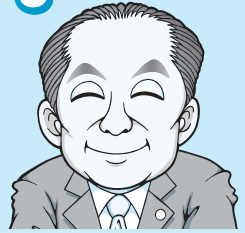


町長の一言



ふるさと納税について

最近になって、「ふるさと納税」なる制度を創設してはどうかという事が話題になっていきます。これは、ふるさとをどう定義づけるか、また、自分たちの狭義の生活圏の中で公共サービスを受けるために税を納めているという住民税の根本の考えと矛盾しないか等、いろいろ論議はあるようです。要は、都市部と地方の税の地域間格差を無くするという考えだと思いますが、これは都市部に住んでいる人が自分の「ふるさと」「縁故地」を指しているかと思いますが、城里町に住んでいる人が東京を「ふるさと」として選択する可能性もあるわけ、何か釈然としないような気がします。

解決できるのではないかと思います。地方交付税は毎年減額になっており、城里町でも合併前平成16年度の3町村の交付税44億2千万円から平成19年度予算は36億円と、3年間で8億2千万円の減になっていきます。国全体の交付税総額が減るのは止むを得ないと思いますが、その総額の中で格差を是正する手法はあると思います。また、最近では、農村部で週末を過ごすための別荘や民家居住が増えそうな気配ですが、住民税は住所地で課税されますので、地方に別荘を持つているような人は、住所が無くて、例えば一週間のウエイトから居住地5ア、週末地2ア等の納税方法も負担とサービスの面から理に叶っているのではないかと思っております。

文芸しるさと

俳句



筋かたき御活のきんびら酔ひにけり 飯田 勇一
山深く大山桜遅れ咲き 山崎 正行
新緑や校門様のお成り部屋 今瀬 多代美
日本の拡大コピー鯉のぼり 竹内 幸子
段畑の畝の短く馬酔木咲く 仲田 まち糸
無風なり湧き出る水を待つ蛙 森 静江
薫風や新しき畳よく匂ひ 高橋 芦江
那珂川の風に乗りけり夏燕 鯉 潤 寿美恵
土間に飼ふ金魚のひび午後晴れし 飯村 愛子
藤の昼墨絵のはがき届きけり 飯村 昭子
新樹光観音様の肩丸し 阿久津 あい子
直線の太陽に伸び陸稲の芽 いそへきよ
ふんはりと白藤の咲く谷深し 田所 厚子
海鳥の群れ飛ぶ日和草矢打つ 瀬谷 博子
トンネルを越えてにぎわう大師講 岩下 金司
幾星霜止幾の生家や藤の花 富田 多蔵
燃えるよな霧島つじに佇みて 青木 新三郎

短歌



座布団の上に広がる小宇宙 脳梗塞に引退く円楽さん 秋山 愛子
坂道を上れば蒼きふるさとの 海広がれり春陽耀ひて 大森 久子
しつかりと緑葉が覆ふ丸き花蔭のたう摘む指先弾む 佐川 あや
容赦なく勝ち組負け組に分けらるるゲートボールなれば心も磨かむ 杉山 みちこ
早春の雑草抜けば再びの萌え出す命知るべし 宮本 ふみ江
今朝見ればつち根に元にかたくり赤子の掌ほとち葉が出てにけり 所 美恵子
学童の飼育せる鮭の稚魚を桂川へ放流す、元気に戻て来いよ、 清柳 京子
理髪して匂ふ夫殿歸り来るいも小粋にしてよあなた 山形 式妙
むらさきの雲の浄土を思はする花大根の群れ咲くあたり 渡辺 千紗子
卒業し孫は新車と就職と願い叶いり天高く澄み 仲田 こうつ
満開の霧島つじ眺めつ二人短歌よむ昼の休みに 岩下 通子
ケンケンと雉の声を季節きて野に人影の多くなりける 富田 欽子
除草の手休めて畑を眺めればフココリーの花青く咲きあり 岩下 美知野
初曾孫の成長願う鯉職新居の屋根をすれすれに舞う 阿良山 ウメノ

川柳



雷神の鳥居建てたる男等を祝うがごとく山桜咲く 鶴田 すが
生徒らに下校を告ぐる放送の西風に乗り間近に聞こゆ 山口 栄
窓ごしに夫植へたりし山ツツジ早や満開に目をうばひあり 市川 義子
古びたる頁めくりつつ読み進む「錦繡」の夫婦羨しみながら 薄井 ひろ
雲の中に夕日は溶けて形なくただ赤あかと沈みゆきたり 枝 不美
老梅の匂へる小庭亡き兄の佛頭たせてはな閑かなり 片見 和枝
花吹雪浴びて急な石段を登りて拜む雨引観音 川上 千代子
ゆらゆらと水面流るる花筏兄のみたまを乗せて去りゆく 島 愛子
わんぱくの坊主に似合はぬ年生の制服どこかきこちなく見ゆ 多田 志保子
はなれ住みて寝たりおきたりは続く夫を介護する我の日気忙し 坪井 きよ子
ひと言の励ましが百人力となれば友との絆大切にせむ 萩谷 登喜子
千波湖で花片浴びる仔水鳥を眼細めて見守る親鳥 和知 美智子
海かとも見紛ふ雄大な青き丘ネモフィラと言ふ可憐な花群 富田 佐智子

水張った田圃に蛙大合唱 山本 隆 莊
しるさとの赤ネギ食べて元気で 中島 芳春